

梅花女子大学教育後援会会則

2004年4月1日 制定
2019年4月1日 改訂

- (名称)**
第1条 本会は、名称を梅花女子大学教育後援会という。
- (目的)**
第2条 本会は、梅花女子大学（以下「大学」という）保証人との連携により、教育の効果を高めると共に、大学の教育研究活動及び学生を行う諸活動を後援して、その発展に寄与することを目的とする。
- (会員)**
第3条 本会の会員は、大学に在籍する学生の父母またはこれに代わる保証人全員をもって構成する。
- (事業)**
第4条 本会は、次の事業を行う。
1. 会報の定期的発行
2. 教職員、学生の教育研究上必要な援助
3. 学生のクラス活動又はクラブ活動等に必要な援助
4. 会員、学生に対する慶弔
5. その他本会の目的達成に必要な事項
- (事務所)**
第5条 本会は、事務所を大学事務室内に置く。
- (役員)**
第6条 本会に次の役員を置く。
会長 1名 副会長 2名
幹事 若干名 会計 2名
会計監査 2名
- (役員任期)**
第7条 役員任期は、4月から翌年3月までの1カ年とし、再任を妨げない。
2. 欠員を生じた場合の後任者は役員会が選任し、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- (役員選出)**
第8条 役員は、総会において選出する。
- (顧問)**
第9条 本会は、第6条に定める役員ほかに、顧問を置くことができる。
2. 顧問は大学の学長、各学部長、学生部長、教務部長、総務部長、および就職部長とし会長が委嘱する。
- (役員任務)**
第10条 会長は、会務を統轄し、本会を代表する。また、すべての会議の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があったときはその任務を代行する。
3. 幹事は、会員を代表し会務を分掌する。
4. 会計は、本会の会計を担当する。
5. 会計監査は、本会の会計に関する監査を行う。
6. 顧問は、会長の諮問に応じ、本会の運営につき意見をのべることができる。
- (事務)**
第11条 本会の所掌事務を遂行するため、専任の事務員をおくことができる。
前項によりがたい場合は、大学に委嘱することができる。
- (会費及び寄附金)**
第12条 本会の入会金は5,000円、会費は年額10,000円とし、第2条の目的を達成するための経費に充当する。
2. 前項のほか、会員又は大学に縁故のある関係者から寄附金を受けることができる。

- (会費の徴収)**
第13条 会費は、前期学費納付と同時に徴収する。
2. 既納の入会金及び会費は退会その他いかなる理由があっても返還しない。
- (会計年度)**
第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- (総会)**
第15条 本会は、学年の始めに定例総会を開催しなければならない。
- (総会の付議事項)**
第16条 本会の予算、決算及び役員の変更は、総会に付議し、その承認を得なければならない。
- (役員会又は総会の招集)**
第17条 本会の事業を遂行するために必要があるときは、会長は役員会又は総会を招集することができる。
- (議決)**
第18条 会議の議決は、出席者の過半数の同意を必要とする。可否同数の場合は議長の決するところによる。
2. 書面決議の場合も前項に準ずる。
- (慶弔)**
第19条 会員、学生に慶事または弔事があったときは、別に定める慶弔金規程により、慶弔金を贈るものとする。
- (付則)**
1. この会則の改廃は総会において行う。
2. この会則は、2019年4月1日から実施する。

梅花女子大学教育後援会慶弔金規程

- (目的)**
第1条 この規程は、梅花女子大学教育後援会会則第19条に基づき、会員、学生に対する、慶弔金について定める。
- (香典及び供花)**
第2条 学生が死亡したときは、その遺族に対して次のとおり香典及び供花を贈る。
(1) 香典 20,000円 (2) 供花 しきみ (実費)
2. 前項の他、会長名による弔電をうつものとする。
- 第3条 学生の父母(父母のない者はこれに代わる保証人)が死亡したときは、その遺族に対して次のとおり香典及び供花を贈る。
(1) 香典 10,000円 (2) 供花 しきみ (実費)
2. 前項の他、会長名による弔電をうつものとする。
- (傷病見舞金)**
第4条 学生が傷病のため6ヶ月以上にわたって療養するときは、次のとおり見舞金を贈る。
(1) 傷病見舞金 10,000円
- (災害見舞金)**
第5条 会員、学生が火災により罹災したときは、次のとおり見舞金を贈る。
(1) 全焼のとき 20,000円
(2) 半焼のとき 10,000円
- (その他慶弔金)**
第6条 その他役員会が必要と認めるときは、その都度協議の上相応の慶弔金又は見舞金を贈ることができる。
- (付則)**
1. この規程は、2015年4月1日から実施する。
2. この規程の改廃は総会の承認を経て会長が行う。

<p>梅花女子大学</p> <h1>教育後援会々報</h1>	<p>No. 22 (2025年10月1日)</p> <p>発行 梅花女子大学教育後援会 〒567-8578 茨木市宿久庄2-19-5</p> <p>印刷 株式会社ITP</p>
--------------------------------	---



『就任のご挨拶』

教育後援会会長
中田 麻紀

会員の皆様、平素より教育後援会に温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。この度、2025年度会長に就任させていただきました、中田麻紀でございます。微力ではございますが、新役員一同力を合わせ、精一杯努めさせていただきます。

今年度も皆様のおかげで、無事教育後援会役員会、総会を開催することが出来ました。就職セミナーや個別相談会にも奮ってご参加いただきありがとうございます。また、新旧役員会と大学関係者親睦会では、先生方との交流を通して、梅花女子大学各学部各学科の特色と取り組みを通じ、就職へのアドバンテージを提供していただいていることを知る貴重な機会となりました。オープンキャンパスでは、著名人の講演を始め、ミニ授業、ワークショップ、個別相談会を開催し、たくさんの学生、保護者の皆様にご来校いただいております。地方からのバスツアーも参加者の皆様からご好評いただいております。

近年、少子化による大学全入時代を迎え、女子大学の存在意義が試されております。全国最大規模を誇る武庫川女子大学の共学化のニュースは、誰しもが衝撃を受けたと思います。その一方で生涯女子大学宣言を宣誓した女子大学もあります。視点、価値観をもって時代の先を見据える女性の活躍がこれまで以上に求められています。そして、新たな時代のなか、さまざまな問題に果敢に立ち向かい解決できる、精神、品性と思いやりを兼ね備えた女性の育成が必要です。



梅花女子大学では、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する事をモットーに、特色ある学びを提供しています。医療機関や教育機関の国家資格だけでなく、グローバル教育の推進、AI時代に対応できるスキルの提供など、専門力や実践力を育てるカリキュラムがあります。そこで育まれた柔軟な発想力と梅花女子大学生ならではの感性で、これまで数々の企業とのコラボレーションを実現しています。現在では、280件を超える商品化やアイデアを実現し、全学科において女性の活躍を体現する活動を、地域社会とともに教育研究として取り組み、学生の学びにつながっています。女子大学という環境だからこそ、性差にとらわれることなく、一人ひとりが対等な関係の中で学び合い、自立した人間として成長することが出来るのだと思います。教養、社会性、精神力を手厚く指導していただける素晴らしい学び舎であり続けられる様、教育後援会も微力ながら尽力したいと思います。学生たちが自分の力を発揮し、支え合い、これからの社会、未来を切り開く力を学び、社会で活躍出来るよう今後とも学校と共に支援出来たらと思っております。

最後になりましたが、梅花女子大学で学び、磨いた人間力で、さらなる高みにチャレンジし、輝ける女性の飛躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2024年度
梅花女子大学教育後援会決算

(2024. 4 ~ 2025. 3)

■収入の部 (単位: 円)

科 目	2024年度 予算	2024年度 決算
会 費	18,630,000	18,380,000
入 会 金	2,035,000	2,030,000
受 取 利 息	126	10,143
前年度からの繰越金	9,782,354	9,782,354
合 計	30,447,480	30,202,497

■支出の部

科 目	2024年度 予算	2024年度 決算	
運営費	会 議 費	1,000,000	775,121
	慶 弔 費	200,000	33,000
	事 務 費	1,400,000	376,403
	会 報 発 行 費	170,000	164,450
学 生 活 動 費	学 会 補 助 費	180,000	100,000
	学 生 指 導 費	300,000	60,000
	オリエンテーション 補 助 費	1,200,000	436,316
	卒 業 記 念 品 費	4,000,000	3,775,762
	小 梅 祭 補 助 費	3,500,000	3,500,000
	ク ラ ブ ・ サ ー ク ル 活 動 補 助 費	3,000,000	3,000,000
施 設 設 備 等 支 援	施 設 設 備 一 部 補 助	6,000,000	0
学 生 経 済 支 援 費	食 堂 補 助 費	9,000,000	6,888,540
予 備 費	497,480	0	
次年度への繰越金	0	11,092,905	
合 計	30,447,480	30,202,497	

2025年度

梅花女子大学

教育後援会役員・顧問名簿

会 長	中田 麻紀 (食文化 4年)
副 会 長	尾家 直美 (こども 4年)
”	近藤 亜紀子 (管理栄養 4年)
会 計	松川 加代子 (情報 4年)
”	石田 恵美子 (口腔 4年)
監 査	田村 由美子 (情報 4年)
”	岸本 知子 (心理 4年)
幹 事	水落 裕代 (情報 3年)
”	上崎 州美 (看護 3年)
”	大櫛 有希子 (情報 3年)
”	今村 憲子 (管理栄養 3年)
”	飯島 ユミ (情報 2年)
”	米倉 ゆかり (看護 2年)
”	市田 八重子 (口腔 2年)
”	西井 恵子 (こども 2年)
”	藤井 史都 (心理 2年)
”	小川 由香 (食文化 2年)
”	能海 智子 (日文 1年)
”	黒田 香織 (心理 1年)
”	山下 怜未 (食文化 1年)
”	村上 静代 (情報 1年)
”	岡嶋 由希子 (国英 1年)
”	住田 理枝 (口腔 1年)
”	服部 令子 (管理栄養 1年)
”	林 亮子 (看護 1年)
”	佐和田 雅美 (こども 1年)

顧 問	河村 圭子 (学 長)
”	今村 泰正 (文化表現学部長)
”	伊丹 昌一 (心理こども学部長)
”	小鶴 祥子 (食文化学部長)
”	深見 秀之 (看護保健学部長)
”	閑喜 美史 (学生部長)
”	瀬戸 口 誠 (教務部長)
”	武政 英次 (就職部長)
”	平木 宏行 (総務部長)

2025年度
梅花女子大学教育後援会予算

(2025. 4 ~ 2026. 3)

■収入の部 (単位: 円)

科 目	2025年度予算
会 費	16,790,000
入 会 金	1,830,000
受 取 利 息	10,143
前年度からの繰越金	11,092,905
合 計	29,723,048

■支出の部

科 目	2025年度予算	
会議等 運 営	会 議 費	1,000,000
	慶 弔 費	200,000
	事 務 費	1,000,000
	会 報 発 行 費	170,000
学 生 活 動 支 援	学 会 補 助 費	250,000
	学 生 指 導 費	200,000
	オリエンテーション補助費	1,000,000
	卒 業 記 念 品 費	4,000,000
	小 梅 祭 補 助 費	3,500,000
	ク ラ ブ ・ サ ー ク ル 活 動 補 助 費	3,000,000
施 設 設 備 等 支 援	施 設 設 備 一 部 補 助	6,000,000
学 生 経 済 支 援	食 堂 補 助 費	9,000,000
予 備 費	403,048	
合 計	29,723,048	

「ご挨拶」

理事長 小川 友次

教育後援会の皆様におかれましては、平素より、本学園の教育・研究活動に温かいご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、梅花学園は2028年創立150周年を迎えます。2026年4月には、待望の新学科「舞台芸術表現学科(認可申請中)」と「国際教養学科」を設置いたします。

舞台芸術表現学科では、アーティスト(俳優・ダンサー)とクリエイター(演出家・プロデューサー)を育てていきたいと考えております。カリキュラムは、国内大学初となる2年次に全員が舞台の本場ロンドンでの研修があり、国際的な感覚や多様な表現を身につけることができ、この梅花女子大学のある北摂では初めての設置となります。

国際教養学科では、国際英語学科が名称変更となり、英語だけではなく韓国語や韓国の歴史・文化について学ぶことができます。また、海外留学や海外研修があり語学力と国際感覚を身につけ世界で活躍する女性を目指します。

創立150周年に向け「日本一美しい学園」へ、より一層社会から求められる人材輩出を目標に進んでまいります。

引き続き温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

梅花女子大学の新たな挑戦

学長 河村 圭子

平素より女子大学の教育にご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

近年、私立女子大学は、少子化や共学志向の高まりにより、厳しい状況に置かれています。多くの女子大学で定員割れが相次ぎ、募集停止や共学化に踏み切る大学も出てきています。女子大氷河期とも言われている困難な状況にあって、梅花女子大学が、より生き生きと輝き続けるためになすべきことは何か、未熟ではありますが私見を述べてみたいと思います。

まず、小規模女子大学ならではの少人数制によるきめ細やかな指導や、女性ならではの視点から社会におけるさまざまな課題を見出し、探究できる知識と技能・技術を身につけることができる教育内容の充実です。そして、社会で活躍するために必要かつ有用な資格が取得できる機会の提供です。そのためには、時代のニーズを先見し、これに適った教育課程を適時適切に改革していく必要があります。その結果として、学部学科の改組改革が推進されていくこととなります。

次に、就職支援の強化です。これまでも、女子大学は就職に強いと言われてきましたが、本学でも毎年、高い就職率を達成しています。2024年度就職率は99.4%でした。産学連携やインターンシップを通して、問題発見・解決能力を育み、引き続き学生の就職活動を積極的に支援していきます。主専攻で取得でき

る国家資格は言うまでもなく、副専攻で取得できる多様な資格も、就職における大きな強みとなっています。

さらに、全学的にIT (Information Technology) 教育を推進していきます。大学におけるIT教育とは、情報技術を活用して教育活動を効率化したり、学生のITスキルを向上させたりする取り組みのことです。具体的には、授業でのデジタル教材の利用、オンライン学習システムの導入などを検討していきたいと考えています。その一環として、2025年度には情報メディア学科「メディアラボ」をリニューアルしました。また、学習環境の整備も重要です。安全で美しいキャンパスを維持することは、自ずから自身を律し、学習意欲を促すことに繋がります。多くの課題がありますが、計画的に改善していきたいと考えております。

最後になりましたが、今後とも本学の教育・研究活動にご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。

梅花女子大学のWell-being

学生部長 閑喜 美史

梅花女子大学教育後援会のみなさまには、日頃より多大なご支援を賜りまして、大変ありがとうございます。

昨春開催の、創立150周年(2028年)に向けたキックオフ会見から、瞬く間に1年が過ぎました。今、150周年を新たなスタートとする梅花女子大学は、社会においてどう在りたいか、どう活躍したいか、といったことを問われる最中を、学生とともに進んでいると感じております。すなわち、梅花女子大学のWell-beingの探求中です。

Well-beingとは、第4期教育振興基本計画(令和5年6月)において、「身体的・精神的・社会的に良い状態」と定義された、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念、としています。

一方、似た言葉に、「will being」があります。これは英語のwill beとwell-beingを組み合わせた造語ですが、私たちが、自らのwill(意志)をもって、未来へと進んでいきたいと思えます。

梅花女子大学は、学生一人一人が自分の良さに気づき、その可能性を活かし、自分の生きがいや幸福を求めてゆく過程を、全力で応援する大学でありたいと思えます。

学生部は、学生が挑戦したいことや、頑張り続けたいことなどの達成に向けた方法を一緒に考え、応援していきたいです。また、学生生活における困りごとには、親身に寄り添い、改善・解決に向けて一緒に考えていきたいです。学生一人一人の意志を大切に学生部でありたいと思えます。学生のみなさんは必要を感じられた時は、いつでも、学生部にお越しく下さい。

教育後援会のみなさまには、温かく深い愛情ですべての学生を支えていただいていることに、心より感謝申し上げます。今後も引き続き、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願い申し上げます。

文化表現学部の近況報告

文化表現学部長 今村 泰正

教育後援会の皆様には、日頃より親身なご支援を賜り誠にありがとうございます。ポストコロナ期に入り、文化表現学部では国内・海外研修や大阪・関西万博に関わる産学連携など、対外的な活動が活況を呈するようになりました。そこでは、多感な時期をコロナ禍により十分に活動できなかった世代の学生たちが、失われた機会を取り戻すかのように主体的な学びを展開しています。もちろん個人差もあるため、ご家庭におかれましては、外へ踏み出す勇気の後押しをお願いいたします。大学では今後もこのような対外的な活動を継続してまいります。各学科の最新動向につきましては大学ホームページをご覧ください「学科ニュース」、「学科Blog」、各種SNSで発信してまいりますので、是非ご覧ください。

さて文化表現学部では、2026年度に「国際英語学科」が「国際教養学科」へと名称を変更し、教育内容も視野の広い真の国際人を育てるものへ展開する予定です。また学部には舞台人を育成するための新学科「舞台芸術表現学科」も設置する予定となっています。これに伴い新たな教育人材を得て、在学生にも興味深い内容を提供していけると考えています。

以下では各学科長から今年度の活動についてご報告させていただきます。

情報メディア学科

教育後援会のおかれましては、日頃よりご支援賜り深く感謝申し上げます。本学科は現在、「AI・デジタルデザイン専攻」、「マスコミ・パフォーマンス専攻」、「ファッションビジネス専攻」、「医療事務・図書館司書専攻」の4専攻からなる多様な専門の学びが可能な学科となっております。今回は以下の授業の取り組みをご紹介します。

2025年度は、43名の新生を迎えてのスタートとなりました。新生は「初年次セミナー」の授業で入学後の4月に担当教員とともに「国立民族学博物館」に見学に行きました。「国立民族学博物館」ではグループに分かれ、お互いの交流とともに関心のある国や文化についてまとめていく取り組みを行いました。さらに学内では、各自ノートパソコンを使い、関心のある海外の国の情報について発表するため、企画書やマインドマップ、図表等作成方法を活用し、PowerPointで個人発表を行いました。

2年次の授業「問題発見・解決セミナーⅡ」では、「海のSDGs映画祭の万博イベントを一緒に作ろう」をテーマに、大阪・関西万博でイベントを開催することを目標に産学連携授業を実施しています。企画、会場で上映する映像・SNS告知コンテンツの制作などをし、2025年9月6日に実際にイベントを開催します。

3年次の医療事務関係のゼミ授業「情報メディア演習I」では、大阪南港にあるATCエイジレスセンターでさまざまなAI・デジタル医療・福祉機器の見学だけでなくAI搭載型の介護ロボットとのコミュニケーション、車いす体験や高齢者疑似体験も行いました(写真1)。今回の学外授業を通して卒業論文のテーマを

検討しているところです。



写真1: 医療事務ゼミでのコミュニケーションAI搭載型の介護ロボットの見学と車いす体験の様子 (ATCエイジレスセンター)

次に本学科の2024年度資格取得に関して、医療事務関連資格の医療管理秘書士(24名)、福祉関連資格の保健医療ソーシャルワーカー(3名)および保健児童ソーシャルワーカー(3名)の受験生全員が合格しました(各資格合格率100%)。試験の高得点上位者として本学科の学生3名が優秀賞の表彰をいただきました。図書館司書資格は、14名取得しました。

設備面では、昨年9月にコミュニティールームがリニューアルされました(写真2)。学生同士や学生と教員の交流可能な居心地のよい空間とともに、パソコンも設置しインターネットでの検索や課題等学習環境にもなっています。授業のない時間に休憩している学生や友人同士で楽しく話している姿、友人同士または1人でマイペーパーに課題等勉学に取り組む学生もいます。

今年度も本学科教員一同、学生との十分なコミュニケーションをとり、学生の学びや相談等に寄り添うよう努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



写真2: リニューアルされた情報メディア学科コミュニティールーム

(綾部貴子学科長)

日本文化学科

2025年度は、29名の新生を迎えてのスタートとなりました。4月3日(木)、新生は学会役員の先輩たちの準備した新生歓迎会に招かれ、お茶とケーキと一緒に、自己紹介を兼ねたゲームなどで楽しいひと時を過ごしました。4月26日(土)～27日(日)には、京都研修がありました。一日目は茅葺きの里・美山町で、二日目は京都市内で日本の歴史や文化に触れました。オープンキャンパスと重なり参加することはできませんでしたが、バスの車内が賑やかになると友達が増えた様子もうかがえたとのことでした。

5月26日(月)には、春季講演会を開催しました。今回は、武士や武具のイラストを手がけるイラストレーターとして活躍されている添田一平先生に、「武士を描く～日本文化と重なるところ～」と題してお話をうかがいました。刀や兜を持参して下さり、その構造や歴史、刀から派生した様々な言葉や文化について分かりやすく説明してくださいました。最後に、その場で兜をかぶった学生のイラストまで描いてくださいました。秋季講演会も、私たちの好奇心を誘って下さる方に講演していただく予定です。

日本文化学科の書道芸術専攻は、担当教員が授業のほかにも書道部の活動もめています。授業後はも

ちろん、長期休暇中の練習等にも学生たちの傍らに寄り添い、一人ひとりに応じて、力を伸ばす練習を進めています。今年も、毎日書道展ではU23奨励賞(漢字部Ⅱ類)を受賞し、出品者全員が入選しています。高野山競書大会では一般部門で金剛峯寺賞を受賞しました。出品した他の学生たちも全員入賞しています。7月にはオープンキャンパスにはじまり、茨木フェスティバルにて書道パフォーマンスが披露されました。茨木フェスティバルの開催中は、作品が「おにクル」に展示されました。9月以降もいろいろ準備中です。

夏休みの期間中にも様々なイベントが続きます。昨年スタートした国内旅程管理研修は、2年生の希望者が、8月6日(水)～8日(金)に教室で講義を受け、9月8日(月)～10日(水)に東北文化歴史研修に臨みます。日本文化学会では、9月17日(水)～18日(木)に岡山方面に一泊二日の旅行を行います。

産学連携関連では2年生が、「三和紙工業(株)」・「山陽製紙(株)」との取り組みの中で、紙の可能性を検討した二回のプレゼンを経て、「紙」という素材をただの情報伝達手段としてではなく、「体験」や「価値」として捉えようとする姿勢には、私たちにとっても多くの気づきがありました。一等等々のコメントをいただきました。

2026年度からは、これまでの専攻が「日本文学・歴史・観光学専攻」「国語教員・図書館司書専攻」「書道芸術専攻」にリニューアルされ、新たに「アニメ・映像文化専攻」が増えます。新しい時代の展開を見据えて常に進化し続けます。

大学ホームページ内の「学科ニュース」や「学科ブログ」、Instagramでは学科の様々な情報を発信しています。ぜひご覧ください。(市瀬雅之学科長)

国際英語学科

教育後援会の会員の皆様、日頃より本学科の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。2025年度、国際英語学科は18名の新生を迎えました。入学直後に開催された恒例の学会入会式では、教員や先輩学生との歓談を通して、新生たちは緊張した面持ちから次第に笑顔へと変わり、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。

6月には9月に予定されているハワイ研修の予習も兼ね、1年生全員で国立民族学博物館へ遠足に出かけました。ハワイに関するクイズを解きながら展示を見学し、世界の様々な異文化に触れる充実した1日となりました。

今年も2年生の「問題発見・解決セミナーⅡ」では、企業様との連携により、貴重な学びの機会をいただいております。今年度は、スポーツ用品メーカー、アンダーアーマーの日本代理店である株式会社ドーム様のご協力のもと、「若い世代にアンダーアーマーの認知度をいかに高めるか」という課題に取り組みました。7月24日の最終プレゼンテーションでは、約3ヶ月間の学びの成果を発表し、ドーム様より温かい評価をいただきました。この経験は学生たちの大きな自信につながるかと確信しております。

8月からは、1年生を対象とした「総合旅程管理主

任者研修」が始まります。今年度はeラーニング形式の座学を経て、資格試験に臨みます。その後、9月8日～13日の4泊6日の予定でハワイでの実地研修に出発します。学生たちにとって、学びを実際の場面で活かす貴重な体験となることを願っております。

また、後期開始間もなく、2026年度前期出発予定の海外実習に向けた留学説明会を国際交流センターのご協力のもと実施いたします。依然として円安などの経済的な厳しさはあるものの、世界に飛び立つことの意義を信じ、これからも多くの学生が国際経験に挑戦してくれることを期待しております。6月には半年間の釜山外国語大学での留学を終えた学生が、かけがえのない体験を携えて、帰国しました。後期には、カナダへ1名、韓国へ1名、それぞれ期待に満ちて渡航予定です。

4年生の就職活動状況は昨年度に続き非常に順調で、多くの学生が希望する進路へと着実に歩みを進めています。今後も、教員と就職部が連携し、一人ひとりの学生に寄り添った支援を続けてまいります。

教員の異動についてもご報告いたします。この春、大橋千秋先生がご定年を迎えられ、本学をご退職されました。長年にわたり学生の指導と学科運営に尽力してこられたご功績に、心より感謝申し上げます。先生は現在、名誉教授として本学の教育に引き続き関わってくださっています。また、GCVなどで学科の英語教育を担われてきたキム・ジョリー先生とアレックス・セリ先生が他校に転出されました。新たに、韓光勲(ハン・カンフン)先生が本学科に着任されました。韓先生は、専門分野を活かして教育・研究にご尽力いただき、学科に新風を吹き込んでくださっています。

最後に大切なご報告です。すでに大学のHPその他でご存知かと存じますが、2026年度より、国際英語学科は「国際教養学科」と名称を改め、新たなスタートを切ることとなりました。「グローバルスタディーズ専攻」「韓国文化専攻」「観光エアライン専攻」の3専攻体制で、英語・韓国語や異文化の学びを基礎に、さらに広い国際的視野と多様な価値観を育む教育内容へと発展してまいります。学科名が変わりましても、学生一人ひとりに寄り添う姿勢は変わりません。小規模大学の長をを活かしながら、これからも教職員一同、丁寧な指導に努めてまいります。

学科の活動や最新情報につきましては、大学HPの「学科ニュース」や「学科ブログ」をご覧ください。ただければ幸いです。また、Instagram(ID: baikaglobalenglish)でも日々の様子を発信しておりますので、ぜひご訪問ください。今後とも、本学科の教育活動に変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。(近藤真理子学科長)

心理こども学部の近況報告

心理こども学部長 伊丹 昌一

教育後援会の皆様におかれましては、いつも心理こども学部にご支援を賜りまして誠にありがとうございます。心理こども学部では学生の主体性の向上やキャリアアップを目指した様々な取り組みを行い、

エレガントでチャレンジ精神あふれる自立した女性の育成に心血をささげております。各学科の取り組みにつきましては、各学科長よりご紹介させていただきます。

心理学科

心理学科は、「心を観て聴いて識(し)り、伝え、優しく支え合う」「人・動物・環境に優しく！学びを進んで実践する」ことのできる女性を育てることをモットーに、「公認心理師」「特別支援学校教員」「キャリア心理」「アニマルセラピー」の4専攻を設けています。今年度は46名の新生を迎え、新しい息吹が感じられます。

昨年度は学科開設20周年という節目の年でした。韓国テグ大学伴侶動物保健学科との国際交流、身体障害者補助犬学会でのボランティア活動やホースセラピーなど、実践の舞台も大きく広がりました。今年度は、次の10年に向けての新たな一歩を踏み出す年です。学科では、学生同士や教員との「つながり」を大切にしながら、学びの深まりと広がりを実感できる取り組みを一層進めています。

1年次前期の「初年次セミナー」では、大学生活を円滑に始めるための学習スキルや人間関係づくりに取り組みます。今年度は、入学時に受検したGPS-Academicの結果を活用し、自分の課題を整理して大学生活の目標を立てるワークショップを実施しました。恒例の天王寺動物園での実習では、動物の行動を観察し、伝わる表現の練習に挑戦しました。

昨年度後期の「問題発見・解決セミナーI」では、企業との連携による課題解決型学習に挑戦しました。「女性の活躍を妨げる不安の解消」「体調への理解促進」「多様性に配慮したトイレ」などをテーマに、アンケートやインタビュー、現地調査を重ね、創意工夫に富んだ企画を発表しました。

2年次は「心理学実験」が必修となり、実験計画からデータ収集・分析・考察・レポート作成まで、心理学研究のプロセスを体験し思考力を養います。

3年次は各ゼミに分かれて専門性を深めるとともに、進路への意識も高まる時期です。公認心理師・特別支援学校教員専攻では、2年次末の選抜を経て、実習に向けた学びが本格化します。昨年度もゼミ活動報告会が対面で開催され、3年生の発表を2年生が熱心に聴講する姿に、学びの連続性と学生同士の良い刺激を感じました。

4年次は卒業研究、就職活動、各種実習、進学準備など、多忙な日々が続きますが、ゼミでの支え合いを力に、学生たちはたくましく成長していきます。心理学科での学びは、確かな自信となり、次のステージへの原動力となることでしょう。

大学院心理臨床学専攻では、充実した公認心理師の養成体制の中で、学内外の実習を通じて実践力を磨き、臨床心理士資格にも対応した教育を展開しています。臨床現場に即した学びの充実を背景に、学内外から多くの入学希望者を迎えています。

学生たちが日々見せてくれる成長や笑顔は、私たち教員にとって何よりの喜びです。これからも教育の質を大切に、一人ひとりの学びや歩みに丁寧に寄り添いながら、心豊かな専門職の育成に努めてまいり

ます。今後とも、温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

※学科活動の詳細は「20周年記念誌」「心理学科通信」、開設20周年記念行事の動画はHPをご覧ください。ただければ幸いです。(三雲真理子学科長)

こども教育学科

こども教育学科は、今年度の4月に学科創設15周年を迎え、5月31日には「学科創設15周年記念シンポジウム&ホームカミングパーティー」を開催いたしました。第一部のシンポジウムでは、「今の私-こども学科/こども教育学科からの繋がり-」というテーマで、1期生から10期生までの卒業生に、学科での学びを活かした現在の仕事(保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・施設職員・絵本作家・玩具会社員等)の様子をお話いただきました。また第二部のホームカミングパーティーでは、軽食をいただきながら、それぞれが友人や教員との久しぶりの再会を喜び、近況を報告し合う、楽しいひとときとなりました。当日は仕事や子育てに忙しいなか大変多くの卒業生にご参加いただき、卒業した後も愛されている学科であることをあらためて実感する一日となりました。

このような多くの卒業生のみなさんに支えられているこども教育学科では、今年度も「めざすはこどもをはぐむスペシャリスト」をモットーに、保育士資格、幼稚園教諭及び小学校教諭一種免許状の取得を主軸に、確かな専門性と現場で生きる実践力を持った保育者、教育者の育成を目指して、教職員が一丸となって教育活動を推進しております。

学科のカリキュラムは、保育、教職に関わる専門科目を1年生からバランスよく配置することで、自分の適性を見極め、将来像を明確にして必要な学習を積み重ねることができるようになっております。とりわけ従来から力を入れております実習は、1年生に幼稚園または小学校での「現場体験」、2年生前期・後期、3年生前期に保育所や施設での3種の「保育実習」、3年生後期に幼稚園または小学校での「教育実習」を履修することになっており、そのいずれにおいても少人数のクラス編成を行い、事前事後学習および実習中の訪問など丁寧な指導、サポートに努めております。同時に即戦力につながる現場でのボランティアの推奨、個々に応じた採用試験の対策など展望を持った指導に取り組んでおります。

また近年、大学では、これまでの教育・研究に加えて、社会貢献の役割を担うことが期待されています。現在こども教育学科では、茨木市との連携事業である未就園のこどもとその親が集える「子育てひろば」の開催、問題・発見解決セミナーIIの授業において玩具会社ポーネルドとの連携により実現した「室内遊びイベント」の実施、複数の企業・団体と協働してこどもたちにお仕事体験を提供するイベント「みらいのたからばこ」への参加等々、産官学連携のさまざまな活動に取り組み、地域社会・経済社会への貢献に取り組んでおります。その他、大学近隣の保育所や幼稚園における「おたのしみ会」や小学校の「クラブフェスティバル」などへの参加協力、こども教育学科主催の「こどもフェスタ」の開催など、学生の主体性、表現力、思考力、コミュニケーション力などを高

めていく、さまざまな活動を行っています。

4年間の大学生活が充実し、卒業後も折に触れて本学を懐かしく思い出していただけるよう教職員一同、学生一人ひとりに寄り添ったきめ細かな対応に努めてまいります。教育後援会の皆様には、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。(藤井奈津子学科長)

食文化化学部の近況報告

食文化化学部長 小鶴 祥子

教育後援会の皆様には、日頃より本学の教育・研究活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。大学を取り巻く環境は非常に厳しさを増しておりますが、梅花女子大学は150周年を迎えるにあたり、新たな改革と変化をしなやかに進めつつ、生きる力を身につけた女性の育成をめざしております。このような時代においては、社会の様々な変化に積極的に向き合い他者と協働して課題を解決する行動力や、様々な情報を見極め知識の理解を深めながら、自らの為すべきことをしっかりと考え対応する思考力や判断力が重要となってきます。本学部では、学生たちが自らと向き合い、食を通じて得た知識や技術を使って何が出来るか、4年間の学びで得たものをどのように社会に活かせるか、自分の強みを社会において発揮できる人材の育成を目指しています。今後も様々なイベントやコンテスト、産学連携の活動を大切にし、質の高い教育を目指し教職員一同引き続き取り組んでまいります。教育後援会の皆様におかれましては、今後ともご支援とご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。活動の詳細につきましては、各学科長よりご紹介させていただきます。

食文化化学科

教育後援会の皆様にはいつもご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。食文化化学科では調理師としての確かな知識・技術習得に加え、学内外での多様な経験が卒業後に大きな糧となると考えて積極的にその機会づくりに努めており、その成果をご報告いたします。

2024年11月に「コースシェフ王料理大会2024」(ハノナ・淡路島)の個人戦にて、竹内菜摘さん(3年)の「“進化する淡路島”ハンバーグを色々な組み合わせでいただく和のエッセンスを取り入れた4種のディップ」が優秀賞を受賞しました。またJAの出版社「家の光協会」主催の第22回「ザ・地産地消・料理コンテスト」にて、石黒裕袿さんと中村彩夏さん(3年)の「大根餅のもちもちグラタン」が優秀賞(地元自慢!米粉・地粉を使った料理部門)を受賞しました。いずれも審査会場での調理・試食を経ての快挙です。

EU・イタリア産トマト商品を推奨するレッドゴールド・ジャパン主催の「トマト缶レシピコンテスト」にて、調理ゼミの3作品が選出されました。また国連WFP主催「WFPチャリティーエッセイコンテスト2024」(テーマ:



“進化する淡路島”ハンバーグを色々な組み合わせでいただく和のエッセンスを取り入れた4種のディップ

大切さを考えよう 私たちのごはん)にて、山本菜津美さん(3年)が佳作入賞しました。

産学連携では、恒例の1年生企画恵方巻として、2025年節分に「真鯛とサーモンのコラボ恵方巻」として関西地区8店舗にて販売されました。例年販売する店舗では早い時間に売り切れとなりました。2年生企画のご縁福巻(音羽鮭)は2025年も12種が選ばれ、販売中です。月ごとの旬の食材を使って工夫を凝らした商品をぜひ1度お召し上がり下さい。

調理ゼミは、フジテレビ系「ウワサのお客さま」(10月)に出演し、レジェンド寮母の村野さんによる男子バレーボールチーム・サントリーサンパーズ大阪のための出張クッキングのアシスタントを務め、日頃の練習の成果をご紹介頂きました。



製菓ゼミ制作「推しのバレンタイン」@なんばウォーク

製菓ゼミは、恒例のスイーツコレクション(9月オープンキャンパス)を開催し、製菓ゼミ考案・制作の様々なスイーツを提供しました。2025年2月にはなんばウォークにて「推しのバレンタイン」というテーマで、各学生の「推し」を表すモチーフをシュガークラフトやクッキー等のスイーツで表現した巨大ケーキオブジェを制作しました。難波を訪れる多くのお客様にご覧頂いたほか、NHKラジオや地元ラジオへへの出演など、多くのメディアにも取り上げて頂きました。

食育ゼミ・調理科学ゼミが取り組む東芝ライフスタイル(株)アプリには「大豆ミートと野菜」、「作り置き」をテーマに27レシピを提供しました。

2024年度海外研修は、参加者が実施可能人数に満たず、残念ながら未実施でした。2025年度は2年生全員参加の海外研修を、予定通りハワイで実施予定です。社会状況や物価が不安定ではありますが、安全かつ充実した研修となりますよう、現在、学科内にて検討を重ねておりますので、保護者の皆様方にもご協力賜りますようお願い申し上げます。(寺川真穂学科長)

管理栄養学科

教育後援会の皆様におかれましては、日頃より格別なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年度は、9期生26名の新生を迎えました。2名のクラス担任を中心に、定期的に個別面談を行い、きめ細かなサポートを行っております。前期の「初年次セミナー」では、大学で学んでいく上での基礎的な知識や管理栄養士になるための心構え、就職活動に関することなど将来の目標について考えることができるような様々な課題に取り組んでいます。さらに、学外研修として「大阪府中央卸売市場」を見学し、食品流通の実際を学ぶとともに学生同士の親睦を深めました。

2年生の「問題発見・解決セミナー」、3年生の「栄養教育論実習」、4年生の「卒業研究I・II」などでは、産官学連携による多様な実践活動を通じて探求力を育成し、社会のニーズに貢献できる問題解決力と創造力の養成に努めております。今年度は新たに、企業と連携し、家電調理器具を使用したオリジナルレシピの考案にも挑戦しております。7月には、3年生が茨木市との連携イベント「第5回 食生活について考えるin 茨木～主食・主菜・副菜はそろっていますか?～」に参加しました。ゲームやパズルなどを通じて食生活について学ぶ体験型栄養教育を行い、500名を超える多くの皆様にご来場いただき、大盛況にて無事終えることができました。

また、8月からは学外実習として、3年生は「給食の運営」、「給食経営管理」、「臨床栄養学」、4年生は「公衆栄養学」の臨地実習、栄養教諭をめざす学生は「栄養教育実習」が始まります。学生たちが目的意識を持って意欲的に実習に臨むことができるよう事前学習にも力を入れて指導しております。

就職に関しまして、今年3月に卒業した第5期生37名の就職率は100%でした。就職先の内訳は、給食会社が13名で最も多く、次いで薬局・ドラッグストア5名、福祉施設4名、病院・診療所3名、学校、一般事務職などです。3年生は「就活ゼミ」に参加し、筆記試験や面接対策、マナーなどを学び、積極的に就職活動に取り組んでいます。4年生の内定率は7月末時点で78.1%となっており、引き続き支援に努めてまいります。

4年生は卒業研究、就職活動と並行して、国家試験の勉強に励んでいます。今年3月に実施された第39回管理栄養士国家試験の全国合格率は48.1%であり、前年より1.2ポイント低下しました(管理栄養士養成課程新卒の合格率は80.1%、既卒の合格率は11.1%)。本学では、第5期生37名のうち27名が受験し、合格者は18名(合格率は66.7%)でした。この結果を真摯に受け止め、さらなる対策強化に取り組んでいます。学科教員による授業及び対策講座で基礎知識の理解と定着を図り、外部講師による特別講座で国家試験に特化した知識と応用力を身につける対策をすすめております。また、新たに国家試験対策アプリを導入し、学生がいつでも主体的に学習できる環境を整備いたしました。学生一人ひとりに寄り添い、一人でも多くの学生が合格できるよう、教員が一丸となってより一層の国家試験対策に取り組んでまいります。

教育後援会の皆様には今後ともご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。(江上ひとみ学科長)

看護保健学部の近況報告

看護保健学部長 深見 秀幸

教育後援会の皆様には、日頃より看護保健学部に温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。本学部では、豊かな人間性と高い倫理観を備え、専門的な医療知識と技術を身につけた実践力のある人材の育成を目指しております。看護師、歯科衛生士として他の医療職と連携・協働し、チーム医療の一翼

を担える人材を育てるべく、様々な工夫を凝らしながら日々教育に取り組んでおります。各学科の具体的な取り組みにつきましては、各学科長よりご紹介させていただきます。

看護学科

看護学科は、今年3月に79名が卒業し、卒業生数は1,007名になりました。今年2月、4年生は国家試験に臨み、合格率は看護師、保健師共に100%でした。看護学科では、各学年の学生と教員から成る国試対策委員により、1年生から4年生まで、一貫した国家試験対策に取り組んでおります。各学年の委員は、問題と解説を作り学内の掲示板やLINEなどで配信したり、仲間を作って学習会を開催したりしてくれています。また、学生の委員がいることで、学生のニーズに沿った対策に繋がっています。今年度も引き続き、学生と共に、国家試験対策に取り組んでいきたいと思ひます。

4月には、88名の新生を迎えました。新生生達の明るい顔を見ることができ、看護学科教員一同喜んでおります。大学に入学して初めて一人暮らしを始めた学生、新しい環境で友達ができるか不安を抱えた学生、高校と大学の違いに戸惑う学生など様々な学生がおります。学生が直面していることを乗り越え、4年後無事に卒業できるように学生アドバイザーの教員を中心に、学生をサポートしていきたいと思ひます。

看護学科では学生の技術と知識の向上を目指し、一昨年度より行っている演習室の開放に加え、解剖生理や病態の理解の苦手克服を目指したTe Raco- YA や、アセスメントの理解を深めるための補講を始めました。演習室の開放日には学生は自分の技術を磨くために積極的に技術演習に来ております。また、Te Raco- YA や補講にも多くの学生が参加して、学習に取り組んでいます。演習室の開放やTe Raco- YA は1～4年生を対象としており、学年間の縦の繋がりを作り、共に学ぶ体制づくりを目指しています。さらに、今年度も引き続き卒業生と在学生の繋がりを強化することを考えたホームカミングデイを8月23日に開催します。ホームカミングデイは、卒業生には今の悩みを解決する糸口になる場、在生には将来の自分をイメージする場になっています。多くの卒業生、在生に参加してもらえるよう、今年度も就職説明会との同時開催とし、交友会とのコラボでの企画で、在校生が主体的に運営してくれる予定です。

看護学科では、学科行事、演習や実習の様子などを積極的にブログに挙げております。また、実習施設向けに年に2回看護学科ニュースを発行しています。学科ニュースの配信により、実習施設の指導者様や卒業生に学科の取り組みを周知し、関係各所と連携しながら、学生をサポートしていきたいと考えております。

今年度も看護学科教員が一丸となって、教育に取り組んでいきたいと思ひます。教育後援会の皆様には、益々のご支援を賜りますようお願いいたします。(福田里砂学科長)

口腔保健学科

今春3月には、第7期生となる59名が卒業しました。

3月2日に実施された第34回歯科衛生士国家試験は59名が受験し、58名が歯科衛生士国家資格を取得することができました。合格率は98.3%で過去最高でした。3月19日の学位授与式では、新しい旅立ちに向けてのメッセージとして、竹内まりやさんの曲「幸せのものさし」からの一節「どんな道を選んだとしても悩みの数同じだけついてくる。足りないもの数えるくらいなら足りてるもの数えてごらんよ。」を贈りました。それぞれが選ばれた道で、夢や目標に向かって力強く羽ばたかれることを期待しています。

そして4月には、新入生48名を迎え入れました。入学時オリエンテーションでは、歯科衛生士(デンタルハイジニスト)は健康の女神ハイジアが語源であり、人々の歯や口腔の健康を守り、なんでもおいしく食べられる健康で豊かな生活を支援するという、社会的に重要な役割を担う医療専門職であることをお話しました。また、口腔保健学科の授業は演習や実習を中心とした必修科目が多くハードな面があるため、履修に不安がある場合は、遠慮なく教員に相談してほしいこともお伝えしました。

前期の授業では、1年生は、歯・口腔の専門知識や病気の予防について学び、2年生は、臨床知識の習得に加えて、歯科衛生士業務の技術トレーニングを始めました。3年生は、後期の歯科診療所での臨床実習に向けて、知識と技術の総仕上げを行っています。9月にはチャペルにおいて、医療人としての自覚と実習生としての心構えを誓う「臨床臨地実習宣誓式」を挙行する予定です。4年生は、病院、保健施設、障害者・高齢者施設、教育機関などのフィールドでの実習を終えると、後期には国家試験の模擬試験と補講が始まります。

課外活動では、教員の研究活動に触れたり、地域と大学の連携のもと、学外での社会貢献を実践する機会をつくっています。また、全学年を対象とした口腔保健学会成果発表会を毎年開催し、学科学生や大学院生、歯科医院、病院、企業、行政などで活躍する卒業生や歯科衛生士の講演を聴く機会を設けています。

本学の口腔保健学科は、全国に14校しかない4年制大学の、また女子大学では唯一の歯科衛生士養成機関です。学科には、病院や診療所、教育機関、企業、行政において豊富な経験を有する歯科衛生士、歯科医師、看護師の教員が在籍しています。プラス1年を有意義に使って、幅広くじっくり学んでもらえるよう、私たち教員が学生一人ひとりに丁寧に対応し、全力でサポートしていく所存です。

最後に、おかげさまで口腔保健学科は、今年で開設10周年を迎えることとなりました。この節目を記念して、学科開設10周年記念イベントを2025年11月8日(いい歯の日)に澤山記念館で開催いたします。これまでの学科の歩みを振り返りつつ、今後の発展を願い、交流を深める場になればと思っております。教育後援会の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。(小島美樹学科長)

本学の進路支援について

就職部

常日頃から本学の進路支援活動にご理解、ご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本学の卒業生の進路は例年多岐にわたりますが、高い就職率を維持し、大手企業への就職実績も成果を上げています。2025年3月卒業生の就職実績について、下記の通りご報告申し上げます。

1 卒業生の就職状況

2025年3月卒業生就職状況

学 科	国際 英語	日本 文化	情報 メディア	こども	心理	食文化	管理 栄養	看護	口腔 保健
卒業生数	29	33	79	68	73	52	37	79	59
就職希望者数(A)	27	31	73	66	57	51	36	77	55
就職決定者数(B)	27	30	73	66	57	49	36	77	55
就職決定率(B/A)%	100.0	96.8	100.0	100.0	100.0	98.1	100.0	100.0	100.0

※詳細につきましては、本学ホームページおよび、大学ポर्टレート(日本私立学校振興・共済事業団)をご参照ください。

【梅花女子大学】



【大学ポर्टレート】



2 本学の取り組み

本学の就職活動の課題として、学生の就職意識が醸成されるのが遅いことが挙げられます。これは、女子大学共通の課題かもしれませんが、3年次後期、遅い場合には4年次になって初めて就職について考える学生も多く存在します。

就職活動は、企業への面接など本格的に動くのは3年生の後期になってからです。ただ、それまでに、まず世の中の中の職業があるのか認識し、次にその多くの職業から自身がしたいこと、また、自身に適性がある職業を選択し、その職業に就くために必要な就職スキルを学校のキャリア教育等で体得し、面接などの企業への就職活動に邁進することが重要です。

そのため、キャリア基礎科目として1年次前期・後期には「初年次セミナー」、2年次前期には「キャリアデザイン」「問題発見・解決セミナー」などの科目を配置するとともに、インターシップを通じて、多くの職業を認識し、教養科目や各学科の専門科目にも独自の就業力養成のための科目を配置し、就職意欲の向上を図っています。

加えて就職部では、大学3年生を対象に、年間約30回の「就活ゼミ」を実施し、書類選考対策、筆記選考対策、面接選考対策、内定した先輩たちとの懇談会など実践的な就職教育プログラムを行っています。各学科で編成される「就活クラス」ごとにキャリアコンサルタント資格を持つ就職相談員を配置し、就活の気になることや心配なことも個別に相談をすることが可能であり、求人情報の提供、就職相談、書類添削、面接練習などの個別支援も行っています。

就職活動は学生本人の意欲がなければよい成果を得ることができません。ご家庭におかれましても、お嬢様方のご成長と、よりよき進路の実現をお見守りくだされば幸いに存じます。

3 主な取り組み

■ 2024年度 就職部プログラム

時 期	日 程	口 座 名	担 当
通年	毎週金曜日 30回	①就活ゼミ	就職部相談員/学外講師
4月	4/10(水)10:40~11:40	新入生ガイダンス	外部コンサルタント
5月	5/11(土)13:00~13:50	保護者対象就職セミナー	外部コンサルタント
5~8月 11~12月	5/13(月)、5/14(火)、6/3(月) 6/13(木)、7/3(水)、7/4(木) 8/6(火)、11/7(木)、12/2(月)	就活証明写真撮影会(有料)	クワッドフォトグラフ
8月	8/24(土)	病院就職説明会	—
8月~9月	8/21(水)、8/23(金)、8/27(火) 8/29(木)、9/2(月)、9/4(水)	②夏期集中!筆記試験対策講座	外部コンサルタント
6月~8月	6/22(土)、7/20(土)、8/8(木)	③就活チャレンジ梅花組	外部コンサルタント
10月~1月	10/26(土)、11/9(土)、12/7(土) 12/14(土)、1/25(土)	スーパーチャレンジ梅花組	外部コンサルタント
10月~12月	10/26(土)、11/9(土)、12/7(土)	④就活チャレンジ小梅組	外部コンサルタント
2月	2/4(火)	まだ間に合う! 基礎からスタート1日完結就活講座	グットライフキャリア
2月	2/17(月)	筆記試験ポイント解説&SPIテスト	リクナビ
2月	2/21(金)	就活直前!本選考エントリーセミナー	マイナビ
2月	2/13(木)、14(金)	⑤採用選考トレーニング	外部コンサルタント
2月	2/5(水)、6(木)、7(金)	⑥学内合同企業説明会	—
2~3月	2/26(水)、3/7(金)	⑦面接実践プログラム	外部コンサルタント
2月	2/13(木)、14(金)	チャ対象 就活講座	外部コンサルタント
2月	2/28(金)	1・2年対象 スタートアップ講座	グットライフキャリア
通年	6/10(月)、7/16(火)、9/26(木) 10/16(水)、11/11(月)、12/3(火) 1/16(木)、2/26(水)、3/14(金)	ハローワーク出張相談会	ハローワーク

各プログラム

①就活ゼミ

就職部では、3年生を対象に就職教育プログラムとして毎週金曜日の2限目に「就活ゼミ」を年間約30回開催しております。就職活動の現状についての理解はもちろん、自己分析、業界研究、文章の書き方、筆記試験対策、グループディスカッション対策、面接対策など、様々な内容の講座を実施します。後期では外部講師や人事担当者をお呼びしての実践練習なども数多く行いました。

・内定者懇談会(就活ゼミ)

年間約30回開催する就活ゼミのうち、12月の回では、3年生を対象に4年生の内定した先輩たちとの懇談会を開催しました。

就職活動は本当に辛く、厳しいものです。今回も様々な業種に内定した先輩が集まり、リアルな就活体験談や就活の進め方などのアドバイスに加えて、就活に向けた学生生活の過ごし方など様々なテーマでお話しいただきました。

参加した3年生で就活に不安を感じている学生からの質問が数多く寄せられ、4年生からは実体験からのアドバイスを受けると共に、とても温かいエールをおくれました。

②夏期集中! 筆記試験対策講座

8月から9月にかけて計6日間、筆記試験対策専門の講師をお招きし、「夏期集中!筆記試験対策講座」を実施しました。

1年生から3年生を合わせて約100名以上の学生が参加し、非言語(数学)の問題を中心に取り組みました。

就職活動においては、この企業が実施する筆記試験を通らない限り、次のステップに進むことは困難です。この講座に参加した学生も、その重要性を十分理解した上で講座に取り組んでいるようでした。

特に非言語(数学)については、出題範囲も概ね決まっており、対策次第では大幅に点数を上げやすい分野でもあります。早いうちに準備を行い、計画的に取り組めば必ず攻略できるので、この筆記試験対策講座を通じ苦手意識がなくなることを願っています。

③就活チャレンジ梅花組

志望企業からの内定を目指す学生を対象とした短期集中型の就活特別プログラム「就活チャレンジ梅花組」を実施しました。

今年度は開催時期を早めて、2024年6月~8月にかけて、有名大手企業の元採用責任者を専門講師としてお招きし計3回実施しました。

就職活動に必要な「グループ面接」「個人面接」「グループディスカッション」などの対策を行い、個人ごとに詳しいフィードバックが返されるなど、一人ひとりに合わせた講座を展開しました。結果、参加者の多くが複数の内定をいただいております。加えて外資系の有名企業に内定を決めた学生が排出されるなど、期待以上の成果を上げています。

後期には、選抜型のプログラム「スーパーチャレンジ梅花組」として、大手企業への入社を目指し、実践練習を何度も繰り返し実施する講座も行いました。

④就活チャレンジ小梅組

希望の進路をかなえるための就活特別プログラム「就活チャレンジ講座(小梅組)」を2024年10月~2025年1月にかけて(合計5回)実施しました。

このプログラム2年生を対象とした講座で、課題である就職意識を醸成させるため、「就活の成功は早めの準備、2年生の今から楽しくスタートしよう!」をテーマに、希望企業から内定を獲得するためのスタートアップ講座です。

早いうちからの就職活動に意欲的な参加学生約40名は、昨今の就職活動の変化について理解を深めた他、文章の書き方や話し方、企業研究法などたくさんの内容を学んできました。またグループディスカッションなどの実践練習も行っています。

参加した学生たちにとって、通常の講義では得られない「生の声」を聴く事の重要性を再認識できました。今後も引き続き実施していきます。

⑤採用選考トレーニング

2025年2月、3年生を対象に「採用選考トレーニング」を実施しました。

このトレーニングは、筆記試験や面接試験、グループディスカッションなどの選考を経て、採用内定に至るまでの就職活動の流れを学内で体験できるプログラムとなっており、2日間のトレーニングに、約20名の学生が参加しました。本プログラムで選考の一連の流れを確認することができ、学生自身の課題発見に繋がったようでした。

⑥学内企業合同説明会

2月5日(水)~7日(金)の3日間で、3年生を対象に「学内企業説明会」を開催しました。金融、ホテル、給食、通信、テレビ制作、薬局、人材ビジネス、公務員など多岐にわたる業界より、梅花に強い関心を持ち、採用意欲の高い34社にお越しいただきました。また、お越しになった企業様の中には、梅花の卒業生で採用担当者という方も何名もいらっしゃいました。対面形式で会社の概要や仕事内容について、3日間併せて約200名の学生とじっくりお話しいただきました。

学生たちは人事担当者の丁寧な説明に熱心に耳を傾け、積極的に質問を行っていました。

実際にこの企業説明会にご参加いただいた企業に就職を決めたという学生が多くいます。

⑦面接実践プログラム

本選考が解禁された3年生を対象に外部講師をお呼びしての面接実践プログラムを2日間で約30名の学生を対象に実施いたしました。実際に面接選考が始まっている方も多く、受験企業を想定した実践的な内容で面接練習を行いました。